

## 農業経営IT活用支援推進事業（継続）

【平成20年度概算決定額：24,013(54,072)千円】

### 対策のポイント

農業気象災害を考慮した生産販売戦略の策定を支援するためのシステムを開発し、インターネットにより気象災害の発生の可能性等の情報提供を行い、情報通信技術を活用した先端的な農業経営の育成を図ります。

#### 〔農業気象情報の活用〕

- ① 気象情報の提供  
ほ場を登録することにより自動的にアメダス観測地点の気温・日照時間・降水量の気象データをグラフ化し、平年値や類似年との比較を行うことが可能です。
- ② 肥培管理計画への活用  
地域における気象の特性を把握することにより、移植・施肥・防除・収穫等の肥培管理を効率的に行うことが可能となります。
- ③ 農業気象災害への活用  
冷害、大雨、風害等の農業気象災害に対し、事前に対策を講ずることが可能となり、災害リスクの回避及び低減が図られます。

### 政策目標

担い手の育成・確保  
<平成18年> <農業構造の展望（平成27年）>  
認定農業者 約23万→ 効率的かつ安定的な家族農業経営 33万～37万

#### <内容>

#### 農業気象災害の発生の可能性を予測するシステム開発（継続）

過去の農業被害や気象データ等の解析による農業気象災害の発生の可能性を予測することが可能なシステムを開発し、インターネットによりアメダス地点ごとの気温変化・積算気温等の気象情報や農業気象災害の発生の可能性等を農業者に提供することにより、気象災害予測を考慮した生産販売戦略や気象災害を受けにくい効率的な営農計画の策定が可能となります。

【補助率：定 額】

【事業実施主体：民間団体】

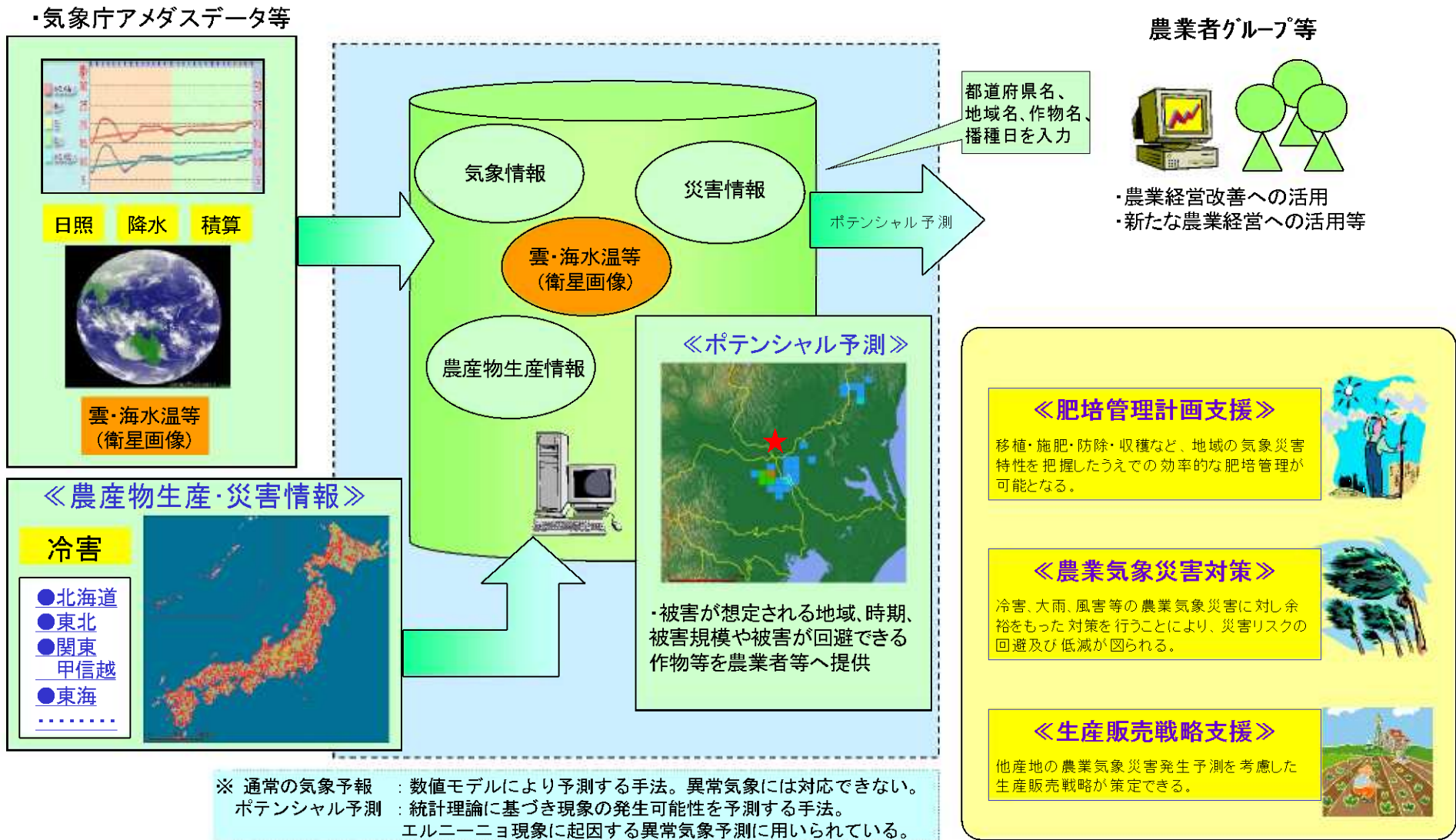
【事業実施期間：平成18年度～平成20年度】

【農業気象災害発生ポテンシャル予測システム構築事業 24,013(25,741)千円】

〔担当課：経営局構造改善課（03-3502-6444（直））〕

# 農業気象災害発生ポテンシャル予測システム構築事業

過去の農業被害や気象データ等の解析により農業気象災害の発生の可能性を予測することが可能なシステムを開発し、分析した結果を農業者へ提供することにより、気象災害予測を考慮した生産販売戦略や気象災害を受けにくい効率的な営農計画の策定を支援し、情報通信技術を活用した先端的な農業経営の育成を図る。



# 農業気象災害発生ポテンシャル予測システム構築事業

